



## つくば市:運動公園計画で住民投票 反対が多数

毎日新聞 2015年08月02日 22時07分 (最終更新 08月03日 22時03分)

### ◇総事業費305億円 計画の大幅な見直しが確実に

茨城県つくば市が建設を予定する総事業費305億円の総合運動公園計画の是非を問う住民投票が2日行われ、即日開票の結果、反対票が投票者数の8割の6万3482票に上り、賛成票1万5101票を大幅に上回った。投票率は47.30%。投票に法的拘束力はないが、推進してきた市原健一市長は「白紙撤回を考えていく」と表明した。

計画では、約46ヘクタールの敷地に総合体育館や陸上競技場など11施設を2024年度までに整備する。体育館は19年の茨城国体の会場に内定している。

旧6町村が合併した同市には小規模な運動施設が分散し、総合運動施設がなかった。市原市長は「公式記録が取れる競技場で夢や感動を」と訴えたが、市の財政規模(年間予算約700億円)に比べ、整備費が巨額だと反発する住民グループの請求で住民投票条例が5月に制定された。

反対派が掲げる「少子化の時代、大規模施設は負の遺産になる」との主張が徐々に浸透。投票前から、市内の事業説明会では反対の声が多く、市原市長は予算縮小に言及したうえ「(反対票数によっては)一から見直すこともある」との姿勢に転じていた。【庭木茂視】



つくば市総合運動公園建設の是非を問う住民投票の開票作業  
=茨城県つくば市の桜総合体育館で2015年8月2日午後8時34分、去石信一撮影

---

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.